

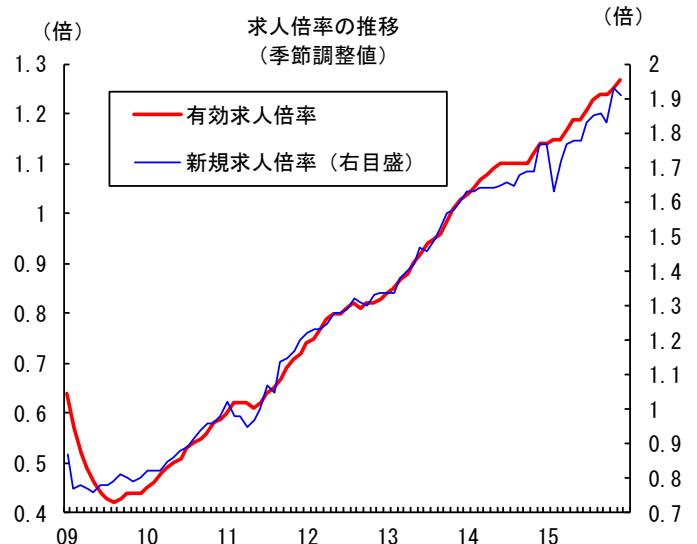
テーマ：労働力調査・一般職業紹介状況（2015年12月） 発表日：2016年1月29日（金）
 ～景気低迷のなか、雇用情勢は引き続き良好～

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 主席エコノミスト 新家 義貴
 TEL：03-5221-4528



（出所）総務省統計局「労働力調査」

（注）2011年3～8月は、補完推計値を用いた参考値



（出所）厚生労働省「一般職業紹介状況」

○雇用者数は増加基調持続

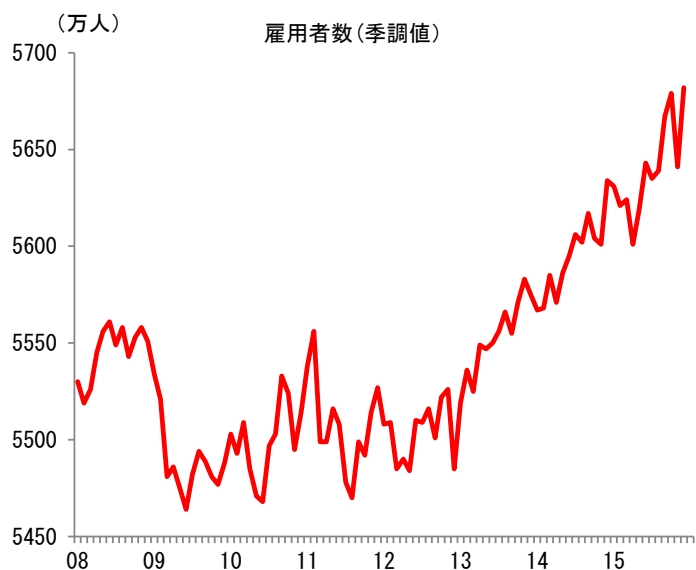
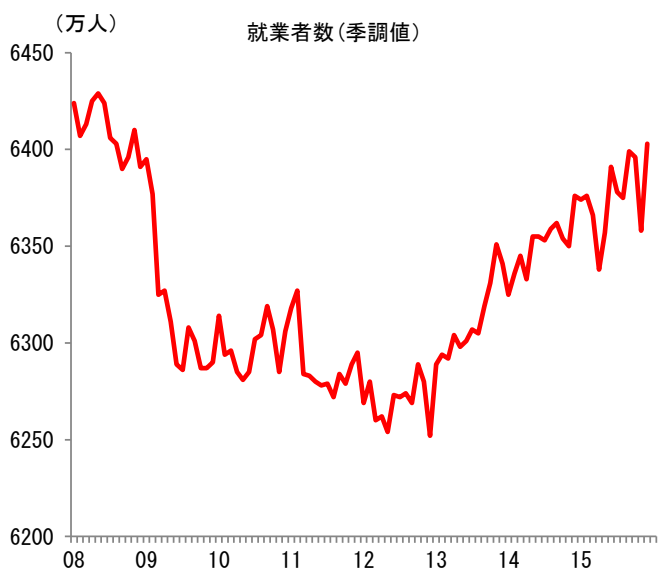
総務省から発表された2015年12月の完全失業率は3.3%と、前月と同水準だった（市場予想：3.3%）。季節調整済みの就業者数が前月差+45万人（12月▲38万人）、雇用者数が前月差+41万人（12月▲38万人）と大幅に増加するなど、ヘッドライン以上に内容は良好だ。就業者数、雇用者数は11月に大幅に減少し、先行きの動向が懸念されていたが、12月はその落ち込み分を取り戻す増加となり、一安心といったところ。月々の振れが激しいが、均してみれば増加基調が続いていることが確認された。また、失業率の水準は依然非常に低く、労働需給の引き締まりが示されている状況に変わりはない。雇用情勢は引き続き良好だ。

○求人は堅調持続

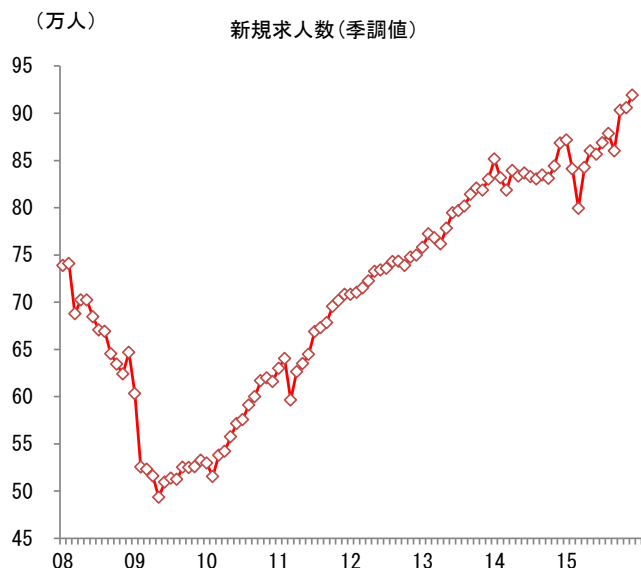
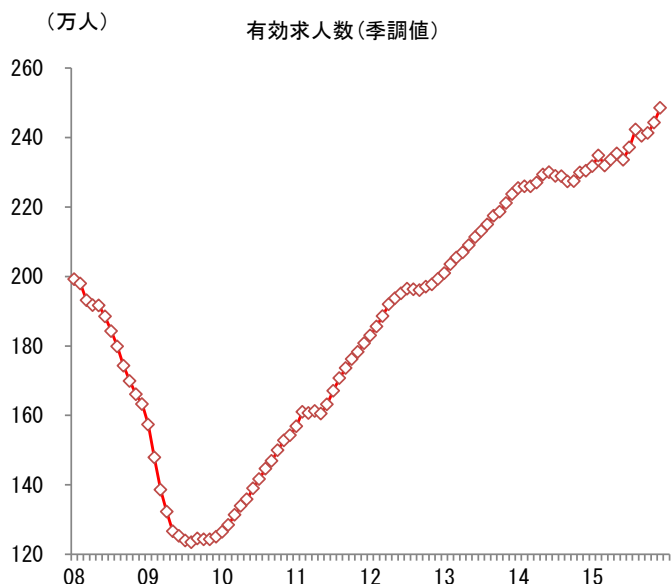
厚生労働省から公表された15年12月の有効求人倍率は前月から0.02ポイント改善の1.27倍、新規求人倍率は前月から0.02ポイント悪化の1.91倍となった。有効求人倍率は1991年12月（1.31倍）以来の高水準である。新規求人倍率は低下したが、前月に0.10ポイントの急上昇した後であり、問題ない。労働需給の引き締まりを示す結果と言える。

また、有効求人数は季節調整済み前月比+1.7%、新規求人数は前月比+1.5%と、ともに3ヶ月連続の増加だった。求人数は着実な改善を続けており、好調が持続していることが示された。

2015年の景気は低調な推移が続いた。筆者はこの景気停滞の影響が雇用に波及してくる結果、雇用も伸び悩んでくると予想していたが、筆者の想定以上に雇用情勢は好調さを保っている。



(出所) 総務省「労働力調査」



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」